議会だめ

126 号 平成28年(2016年)11月1日 編集:議会だより編集委員会 発行:三 浦 市 **T**238-0298

神奈川県三浦市城山町1番1号

☎ 046(882)1111内線462·463

第3回定例会

)創設等を求める意見書を可決

〈議会だより第126号の内容〉 定例会の経過と概要………1面 決算審查特別委員会 … 1~2面 常任委員会……2面

一般質問⋯⋯⋯⋯ 3~6面 陳情の審査…… 7面 本会議における討論……… 7面 可決した意見書…… 7面

議会報告会 8 面 次回定例会の予定…… 8面 議案等の審議結果…… 8面

定例会の経過と概要

3地区で議会報告会を開催しました(三崎地区:市役所 議場)

		~	ניו									
月日	曜日	会	議	名	内容							
9月6日	火	本会議			会期の決定、一般質問							
7 ⊟	水	本会議			一般質問							
8 🖯	木	本会議			一般質問、議案の審議(説明・委員会付託)、 決算審査特別委員会の設置							
9 ⊟	金	総務経済	育常任	委員会	議案・陳情の審査							
12日	月	都市厚生	上常任	委員会	議案・陳情の審査							
14日	水											
15⊟	木				議案の審査							
16⊟	金	決算審査	全特別	委員会								
20⊟	火											
21日	水											
28日	水	本会議			議案の審議(総務経済・都市厚生・決算審査の 各委員長報告・討論・採決)、意見書案、人事 案件(教育委員会委員)、閉会中継続審査申し 出、議員派遣について、報告							

日までの二十三日間を会期として開かれました。 十五議案の審議を行いました。 今定例会では、平成二十七年度決算を初めとする、 平成二十八年第三回定例会は、 九月六日から二

> 特 決 別委員会 奮 査

> > 状況を伺いたい。

年に比べると若干、額 |各弁||二十七年度は前 さと納税活性化事業の

下 小 草

の

出 神 長島満理子 石橋むつみ 田正真界 林直樹治

が、自治体間の競争に 源として活用している が減少した。貴重な財

な手法を検討する状況 よる影響もあり、新た

関係機関に送付しました。

(記事七面)

創設及び無利子奨学金の拡充を求める意見書を可決し、

また、

最終日には、

返済不要の「給付型奨学金」

観光振興

案内所の設置ができた 組みに関する成果は。 った三崎口駅への観光 答弁 長年の懸案であ

あったと思う。 ことは、非常に効果が

市の財政運営

に質疑

全般にわたり

事業展開をしており、 の協力を得て積極的な 事業では、事業者から 続き頑張りたい。 結果が出せるよう引き 誘客プロモーション

質問 市税減少など厳 管に対する市長の見解 は。 第に対する市長の見解 は。 第に対する市長の見解 は。 第に対する市長の見解 は。 を弁 財政状況は依然 が、身の丈に合った財政規模、事業内 容で取り組んでいる。 また、国の交付金等

にある。 質問 観光誘客の取り

算審査特別委員会 ~議案の審査概要~

決

され、五日間にわたり審査されました。人の委員で構成する決算審査特別委員会に付託及び企業会計(病院、水道)の決算議案は、八公共下水道、第三セクター等改革推進債償還)健康保険、後期高齢者医療、介護保険、市場、健康保険、後期高齢者医療、介護保険、市場、平成二十七年度の一般会計、特別会計(国民

取り組まれているふる

(その他の質疑項目)

教育費の比率につい 決算額全体における

商品券など、今までに進策やプレミアムつき

ふるさと納税

取り組みについて 市制施行六十周年

市民活動デイについ

財源対策として

市・県民税の特別徴収

ついて 寄附金による収入と使 コンビニ収納の利 況について への切り替えの推進に 用状

総務費

途について

市民活動ポイント事業 の成果について

防犯灯をLEDに切り

替えた効果について

れるので、人事管理と職 場環境の改善を求める。 職員の負担増が見受けら より二百三十四人少なく、 ●民生費 市の職員数が定数

二十七年度から開始し た生活困窮者自立支援

現状と欠員のある区へ 民生委員・児童委員の 事業の実績について の対応について

老人福祉保健センター

衛生費 の利用状況について

向上の取り組みについ がん検診の無料クーポ ン券配付による受診率

ごみダイエット大作戦 の取り組みについて

容について 環境センターの改修内

農林水産業費

農業振興事業の決算額 浜の活力再生プラン等 の取り組みについて

第 126 号

防潮扉の管理について

が増大した要因につい

発行事業の成果につい プレミアムつき商品 て

来遊客や教育旅行の誘

ている。

●災害復旧費

の影響を非常に大きくし 準より低い所得の家庭へ げたことは、生活保護基

三崎口駅前に設置した 観光案内所の利用状況



土木費

空き家対策実態調査 急傾斜地崩壊対策工 実施結果について 事

る要望と対応件数につ 道路の維持補修に関す 状況について

特別査察について 火災を受けて実施した 川崎市での簡易宿泊所 用食糧の備蓄について 災害時における避難者

教育費 果について

海洋教育の取り 成果について 総合教育会議での 組みと 協

案件について

致について

と今後の展開について

・二十七年度中に生じた

大雨による被害の復旧

険防止の観点から、流出 道路を走行する車両の危 を防ぐ方策を検討してほ の土砂の流出については、 状況について 大雨による畑から

て

国民健康保険事業 国保連合会に支払う負 担金に係る事務処理に

糖尿病の重症化予防の 特定健診の受診状況と 取り組みについて 受診率向上策について

ることから、 の支援金が支出されてい ら後期高齢者医療制度へ 増加したこと、本会計か 額が上がり、市民負担が 保険税の課税限度 本議案に反

後期高齢者医療事業

防災行政無線の点検結

七十四歳未満で一定の 障害がある方の加入数 について

収入のない被保険者に ついて 対する保険料の賦課に

費等の助成単価を引き下 するが、一方で、学用品 限を緩和したことは評価 事業について、所得制 小中学校の就学援 後期高齢者医療制度自体 保険者にも保険料を課す 差別をし、収入のない被 年齢で医療保険の

に反対である。

理由について 地域包括支援センター への委託料が増加した

介護認定申請から認定 について

市場事業 について までの期間と暫定利用

状況と料金体系につい 市場内の会議室の利用 と空き室対策について 貸し事務室の入室状況

市場施設の見学者数に

公共下水道事業 ついて

下水道使用料の値上げ 出について 設の故障による汚水流 金田中継センター による収入の増加額に の施

下水処理計 況について 画の 策定状

号

◎平成二十八年度三浦市

一般会計補正予算(第二

ついて

債償還事業第三セクター等改革推進 内訳について 土地の貸し付け 収入の

うものです。

(質疑の主な項目)

管理化対策事業について、

本案は、市場高度衛生

地域防犯カメラ整備に

対する補助について

債務負担行為の補正を行

ぞれ千八百二十一万一千

本案は、歳入歳出それ

円を追加するとともに、

生計画を成立させ、認定 計への繰り入れが、市の ている。二町谷の地域再 実質公債費比率を高くし に結びつけられるよう要 意見 一般会計から本会 起債の利率について

介護施設における介護

ロボットの導入支援に

定するものです。

(質疑の主な項目)

新築される低温卸売場 の延べ床面積が増加し

車場の土地貸し付け収

南下浦市民センター駐

病院事業

リビングラボラトリ の成果について

の増加について 人間ドックの受診者数

ついて

水道事業の経営状況と

○小林直樹副委員長より、

保険税の課税限度額が引

が反対の理由として述べ 民負担がふえていること

○石橋むつみ委員より、

として述べられました。

国民健康保険

準月額が値上がりし、市

二十七年度から保険料基

度の支給額が大幅に減額 少ないこと、就学援助制 されたことが反対理由と して挙げられ、勤務状態 市職員が定数より大幅に

医療スタッフの確保に

今後の見通しについて

ついて 給水管の老朽化と、 設替えに対する補助に

したこと等が賛成の理由

供などの積極的な推進を

質疑終了後は、

境の充実や消防力の強化、 歳入増加策、 安心・安全な水産物の提

保険料を払

スない層から

第三セクター等改革推進 して述べられました。

も徴収する、

年齢による

債償還事業

後期高齢者医療制度は、

○石橋むつみ委員より、

ること等が反対の理由と 百万円も市民負担がふえ れ、四年間で一億五千六

水道事業

険料基準額の改定内容 二十七年度における保

有収水量率について

討論が

たこと、三浦市の教育環 身の丈に合った事業や、 の改善、就学援助制度の に取り組み、成果を上げ ○長島満理子委員より、 充実が求められました。 歳出削減策

述べられました。

後期高齢者医

公療事業

ことが反対の理由として 支援金が拠出されている 計から後期高齢者医療へ き上げられたこと、本会

下水道使用料が値上げさ 〇石橋むつみ委員より、 公共下水道事業 られました。

として述べられました。 介護保険事業

あることが反対する理由 差別と負担増そのもので

この会計は土地開発公社

○小林直樹副委員長より、

解散の尻拭いをするもの

○石橋むつみ委員より、 た主な要因について

水産関連団体の納得を得 れた市場の開設に向けて、 意見 高度衛生管理がさ た検討の経過について 高度衛生管理化に向け

◎平成二十八年度三浦市

いて

護を行う事業所数につ 指定地域密着型通所介

水道事業会計補正予算

議案の審査概

要~

定める条例の一部を改正 サービスに関する基準を ◎三浦市指定地域密着型

のです。 (質疑の主 一な項目)

額を二億七千四百五十四 でした) 万円とするものです。 資本的収入について、総 千六百七十七万一千円に、 業費用の総額を十四億九 予定額を増額し、水道事 (質疑は特にありません 本案は、収益的支出の



後期高齢者医療事業に係

度に反対しているため、

意見 後期高齢者医療制

求める。

られるよう、

市の対応を

(第一号)

入が変動した理由につ

る負担金が計上されてい

る本議案に賛成できない。 ◎平成二十八年度三浦市 市場事業特別会計補正予

繰越明許費を設定すると ともに、債務負担行為と して期間及び限度額を設 関する基準等を定めるも 域密着型通所介護の事業 0) 一部改正に伴い、指定地 本案は、 人員、設備及び運営に 介護保険法の

所介護の必要性につい 三浦市で の指定療養通

第3回定例会の本会議録は、12月上旬から市役所市民協働課、図書館、またはホームページ内の会議録検索システムで閲覧できます。

7

として述べられました。

であることが反対の理由

○水産業の振興	(みうら市政会 出口眞琴)3 面
○自転車で三浦市を楽しむ	(日本共産党 石橋むつみ)3 面
○水産業の活性化に向けて	(公明党 藤田 昇)4 面
○地震災害対策	(自由民主党 出口正雄)4 面
○道路の安全	(無所属 下田 剛)4 面
○ごみ持ち帰りの啓発	(みうら市政会 長島満理子)5 面
○市営プールの補修	(日本共産党 布川照美)5 面
○滞在型の観光を	(無所属 寺田一樹)
○公共施設の現状と今後	(みうら市政会 神田眞弓)6 面
○大規模災害に備える	(日本共産党 小林直樹)6 面
○六次経済の構築	(みうら市政会 草間道治)6 面



画では、高度衛生管理 る高度衛生管理基本計 の推進により見込まれ 見 三崎漁港にお 水産業の 避難所運営委員会、ごみ処理業務

あり、

高度衛生管理の

めていくよう調整を図

で、速やかに協議を進 ことが予想されるの 配置されても混乱する

減がある。

原理に基づくコスト削

ることは極めて重要で

組みの一つである。

高度衛生管理はハー

おり、避難所の運営に 総務部長 お話しのと っていただきたい。

低下や、ごみダイエッ

による市民サービスの

一方で、効率化優先

を来さないように配慮

ト大作戦の推進に支障

推進はそのための取り

みうら市政会

出口

した場合、市の職員が

民間委託導入の大きな

質問 ごみ処理業務

民間委託の検討

招かな

メリットとして、競争

仮に、今災害が発生

振 興

協議がおくれている避

いるが、運営に関する

努めたい。

組んでいくのか。 挙げられている。 めに、どのように取り ドを維持、強化するた ランドの価値向上等が る効果として、三崎ブ 三崎マグロのブラン

> と一体となって進めた が重要であり、関係者 との一体的な取り組み ドだけではなくソフト

それがある。

今後、詳細事項まで

理業務は市民生活に密

都市環境部長 ごみ処

所に市職員を配置して

も、運営が混乱するお

が、市の考えは。

ことが必要だと考える

して民間委託を進める

れていなければ、避難 ついてきちんと定めら

水産担当部長 三崎漁

協議の促進

港に立地する魚市場と

ド価値を維持し、高め して、マグロのブラン

営委員会が設置されて ての避難所に避難所運 質問 災害に備え、

ついて理解を得るよう 避難所運営の重要性に 事例を紹介しながら、 協議を進めている先進 ***************

療や暮らしていく上で の世帯が多いため、 率が高く、高齢者だけ 健康を保つために の不安が大きい。 **質** 吉浦市は高齢化 高齢者が自分自身の り課で実施している各 以上の方が対象の七福 種がん検診なども受診 神ドックや、 実施している七十五歳

状況を保てるよう、市 新たな取り組みは 戦後七十一年と 戦争や被爆を直

病気になりにくい体の 健康状態を把握して、

健康づく 対象年 は大切 を見直して、新たな企 り組みをしているが、 残る者が語り継ぐこと 画をすると述べられて ってきているが、後に の標語を募集する取 おととし、去年は平 -齢や実施内容等 なことだと思う。

> 整をしている。 市内の戦争遺構に関す は、市内の小学校で、 定しており、具体的に る授業を行う方向で調 たな視点での事業を予 政策部長 今年度は新 いたい。

進している。 市民との協働作業で推 みの減量化や資源化は 着した業務であり、ご

接語れる方が少なくな

いる。今年度の予定を

ブランドカの強化を

自転車で三浦市を楽しむ

高齢者の健康、平和行政

日本共産党 石橋 むつみ

ないか。

るような、

よい方法は

ところを知ってもらえ ルコースなど楽しめる を呼びかけつつ、モデ

安全面や交通ルー

経済部長

横須賀三浦

やレンタサイクルなど 手段として多く利用さ 市内でもロードバイク れるようになり、三浦 スポーツやレジャーの 近年、 いる人が見 自転車が を作成・配布し、非常 に好評だと伺っている。 &ウォーキングMAP

また、三浦海業公社が スが紹介されている。 冊子の中でモデルコー 転車半島宣言」という のホームページや「自 地域県政総合センター

> 組みを行っているか。 としてどのような取り

「三浦市サイクリング

健診事業として実施し

齢者医療制度における 保健福祉部長 後期高

無料で受診ができる。 ているなごみ健診は、

を考えるとともに、 携してサイクリング愛 今後も関係機関と連

また、平成二十七年度

また、一部有料とな 三浦市立病院で

「うらり」のレンタサイクル

市民サービスの低下を 委託化については、 いよう配慮する

域化やごみダイエット

とともに、ごみ処理広

ことが重要だと考える。 ないよう慎重に進める 大作戦の推進に支障が

輸出に限らず、

中、市民の安全を確保

確率を上げている

するための行動が必要

質問 国が大地震発生

水産業の活性化に向け 地域再生計画、CCRC

公明党 藤田

※は欄外に説明を記載

三崎水産物ブランドの

求めたいと考えている。 施設についても議論を や加工場といった関連 さらには超低温冷蔵庫 イロット事業の内容、 戦略を検討していただ 拡大、発展につながる きたいと考えている。 ケティング調査やパ また、実施予定のマ

りで、自分の経験から

|市長| おっしゃるとお

発展につなげてほしい。 の販路拡大を促進し、 取り組みでは、国内外 どのような方針で検討 設置した協議会では、 輸出促進基本戦略を策 イング戦略策定事業の るグローバルブランデ 定するということだが、 三崎ブランドの拡大、 この中で、三崎漁港 三崎漁港におけ 事業提案書の審査

思う。

有識者として、金融機

したがって、

外部の

思うが、市長の考えは。

判断するのは難しいと

実現性などを公務員が も、事業の収支計画、

企業誘致を図るために、 質問 二町谷地区への

****************** ただけるような体制を 方からアドバイスをい 関の方など知見を持つ *************

算が必要な対策につい きしたい。 る。市長の考えをお聞 ることが大事だと考え 今以上の働きかけをす ては、国・県に対して ろから地域の子供たち 凶悪になっている。 わる事件、犯罪が年々 情報の共有 質問 子供たちの

正雄

独で実現していくのは 面の対策は、三浦市単 ための工事などハード 購入や危険箇所解消の として大きな役割を果 を行い、情報共有の場 各学区内で地区懇談会 おり、一定の効果を上

での災害対策を進めて

の多くの方が県内を訪

げていると思う。

要だと思うが、どうか。 の顔が見える組織が必 に密着した、子供たち える必要がある。地元

|教育長||中学校では、

方、防災資機材の

の実施によりソフト面

訓練や市民防災講座等 市長 これまで、防災

の状況を観察し、情報

我々大人たちが日ご

を共有できる体制を考

交換会などを行ってお クールガードとの情報 との地区懇談会や、ス 小学校では、 たくさんの目で子

では可能な限りのソフ

財政の厳しい三浦市

て要望をしている状況

説制度の拡充につい

ト対策をし、

高額な予

地域再生計画の策定に り組んでいる。

つくっている。

して、

関係者会議には

いコミュニティーとと

を行うが、事業提案の これから本格的な審査 確実な審査ができる範 め、市職員だけでは、 内容は多岐にわたるた :の事業提案を受け、 市では事業者から九

事業展開に向けた準備 **質問** 三浦版CCRC 事業の進展 り組みとも合致すると 神奈川県の未病への取 所、三浦」とのことで なるために行きたい場 健康になれる、健康に とが感じられる。 あり、この方向性は、 プトは「三浦に来ると が着々と進んでいるこ 式に報告されるなど、 構想は、事業者名が正 今回の構想のコンセ

囲に限界があるのでは

ないか。

知事にもこの件を報告 り組みとは明確に合致 すると思っており、県 市長県の未病への取

三崎魚市場

見受けられるようにな

でもさまざまな箇所に 段の一つであり、市内 を守るために有効な手

ルトは歩行者の安全

道路のグリーン

った。

市民からも、安心し

ことができるよう取り 供たちの様子を見守る れるものと期待される。 今からアピールするこ この機会を逃さぬよう、 観光都市三浦として

かかか

組んでいる。

オリンピックでは、横 浜や江の島でも競技が 行われるため、国内外 質問 二〇二〇年東京 経済部長 いかがか。

子供を見守る体制、オリンピック

自由民主党 出口

ク開催に向けた地域の PRは、首都圏はもと ピック・パラリンピッ 東京オリン

力を入れて取り組んで 三浦市においても、

とが必要だと思うが

市民防災講座の様子

より、 全国の自治体が

> らグリーンベルトを整 て、平成二十六年度か

通学路の安全対策とし

度内に が効果 上で、

都市環境部長

市では、

求めたい。

る箇所に早期の整備を 今後も必要と考えられ と評価されているので、 て通れるようになった

県、民間事業者と連携 ウハウを生かしながら、 これまで培ってきたノ PR手法について検討 して、観光客に向けた

果的な場所や整備内容 める予定であり、 と協議していく。 について、各関係機関 行量等を考慮して、効 路の状況や歩行者の通 ーンベルトの整備を進 今後も引き続きグリ

通学

ている。 質問昨今、

機関連絡協議会を設立 陸上自衛隊で危機対策 消防署、三崎警察署、 しているが、 本年五月に、市や市 このメン

各機関との連携

により大きな被害が出 や台風などの自然災害





グリーンベルト

康施策を視野に入れて もに、三浦市全体の健

参加してもらっている。 県の地域政策課長にも

CCRCという新し

取り組みたい。

災害対策、福祉施設への対応

無所属 下田

剛

バーと 協議内容を伺

なり、 からの 針などの情報交換を行 有している資機材、災 動する っている。 害の内容による活動方 活動内容や、保 各機関の発災時 職員が構成員と 実際に現場で活

容を取りまとめたい。 内容を確認・理解した 今後、各機関の活動 は一旦、協議内 心的か協議し、年 どのような連携 事態に備えて 七月に相模原市 れており、夜間は機械

後の対応についての意 起の状況の確認と、今 対応としては、注意喚 警備を行っている。 市内の福祉施設への

見交換を行った。

不審者を見かけた

場合は速やかに警察に 通報することが徹底さ 人福祉保健センターで 市が所

祉センターと三浦市老 しては、三浦市地域福 有する施設での対策と 保健福祉部長

のか。 のような対応を行った 0) ているのか。また、こ 備えて何か対策を行っ しい事件が起きた。 事件を受けて、市内 福祉施設に対してど 市は、不測の事態に

などが殺傷される痛ま やまゆり園で入所者 県立津

※三浦版CCRC構想……日本版CCRC構想(高齢者が地方に移り住み、健康でアクティブな生活の実現と継続的なケアが受けられる地域づくり)を推進し、 三浦市の持つ魅力的なコンテンツを活用しながら、雇用創出や人口減少抑制に寄与するまちづくりを目指すもの

経済部長

品に認定された。

市内でとれた魚介類や

みにシフトチェンジし 長を図るような取り スなどの誘客の取り組 ては、シティ・セール

滞在時間

かと思うが、私も同様 トすべきというご意見 在型の取り組みにシフ 回遊性を向上させ、滞 のセールスではなく、 でのような日帰り中心

市内業者と連携して、

能性表示食品が規定さ

れ、JAみっかびのミ

品表示基準に新しく機

夏問 昨年四月から

農水産物を利用した地域活性化を

開発課を中心に取り組 来ている。これは営業

行ってきた。

質問の趣旨は、今ま

手の届くところにまで 目標の年間六百万人に 観光客は年々増加し、

国内外に広く三浦の魅

あったのか伺いたい。

業開発課を立ち上げ、

力について営業活動を

寛 吉浦市を訪れる

てもいいのではないか

平成十六年に営

中で唯一、五〇%に達 県内五十八市区町村の 率より五%近く低く、

ルスの成果であると言 んでいるシティ・セー

今後の観光施策とし

くことを実行委員会に 声かけ対応を広げてい

いては、可能な範囲で

ごみの持ち帰りにつ

提案していきたい。

機能性表示食品

カンが果実として全国

で初めて機能性表示食

ごみ持ち帰りの啓発

みうら市政会 長島 満理子

地域活性化、投票しやすい環境

のごみを見ると、何か 海岸から駅までを清掃 する。放置された大量 ボランティアを中心に、 会翌日に実行委員会や つり花火大会では、大 策を考えなければい ないと感じる。 三浦海岸納涼ま

をしているので、安全 の持ち帰りを促す啓発 に注意しながら、ごみ スタッフが警備や誘導 活動はできないか。 大会当日は、多くの スタッフの て予測される。 現在、具体的な方策

共通投票所

交通規制を目的として 配置は来場者の誘導や

いるため、まずは安全

を得ない面がある。

確保に重きを置かざる

が大きなメリットとし 得向上につながること され、農業生産者の所 値を上げる効果が期待 値として三浦野菜の価 の表示により、 考えはないか。 経済部長 機能性食品 活性化につなげて 定物を利用し、 付加価 地域

を進める考えである。 活用方法について検討 関係機関と協議を行い、 は決まっていないが、

質問 改正公職選挙法

投票所を設置できるよ ピングセンターなど利 うになった。 便性の高い場所に共通 成立により、 判断で、駅やショッ 自治体

市の取り組みは。 が必要だと考えるが、 票しやすい環境づくり 三浦市では、市民が投 が県内で最も低かった 参議院選挙の投票率

> げるのは難しい。 め、正確な額を申し上 用を試算していないた

> > 票所に来る方が多いの

あることは非常にすば

化には法令の改正が必

交換をしていきたい。 市町村や県などと意見 解できるが、まずは他

学校給食の無償

三浦市に中学校給食が って重要なことであり、

高齢者は同伴者と投

で、広い施設を期日前

休止から六年が経過

投票所として設けるこ

とはできないか。

選挙管理委員会事務局長

今回の意見を踏まえ、

選挙管理委員会事務局長

っている。 あり、財政的に困難と テムを構築する必要が 投票を防ぐためのシス 便利な制度だが、二重 理由から設置を見送 共通投票所は非常に

と考えている。 視していく必要がある 体の今後の動向等を注 いため、国や他の自治 を設置した自治体はな 県内でも共通投票所

市営プールの補修

投票所の利便性、学校給食

程度費用がかかるのか るが、補修するとどの 三年度から休場してい は老朽化し、平成二十

市長 補修に要する費

ったと聞いている。 すれ違えないほど狭か 椅子が置かれていて、

> 子供の情緒の安定にと て食事ができることは

無償化の訴えをしてい る。市から国に対して 化することが必要であ

いては、趣旨は大変理

国への働きかけにつ

ただきたい。

日本共産党 布川

照美

下に順番を待つための 室内が狭かったり、廊

にかかわらず、安心し

質問 家庭の経済状況

国が責

(任を持って無償 一障するためにも、

担軽減策を講じている。

食を保

が、経済的困難を抱え 実施することは困難だ 要であり、市が主体で

る世帯に対しては、負

進するなどの効果があ

選挙で期日前投票所が

していきたい。

らしいことだと考える。 教育としての学校給

設置された合同庁舎や

国への働きかけ

であり、 規模な改修工事が必要 なると見込んでいる。 するためには、相当大 かなりの額に

所となるように、施設

者が投票しやすい投票 今後は、より一層有権

の立地、バリアフリー、

駐車場、施設の設置費

ポーツであり、

誰でも楽しむことがで ため、なじみのあるス 業で必修となっている 気軽に 増していると思うので 衛生的に安心して利用 して施設のふぐあいも

質問 水泳は学校の

質問 ことしの参議院

脳神経回路の発達を促 ろに水泳を行うことは、 きる。また、子供のこ

滞在型の観光を

参議院選挙を終えて

無所属

寺田

樹

民の目線に立って検討 用などを勘案して、市

%で、全国や県の投票 の投票率は四九・九五 で行われた。三浦市で 選挙が七月十日投開票 **質問** 参議院議員通常

何か取り組みに問題が あったのではないかと 投票率ということで、 いうような反省がある。 市長 県内で最も低い のように感じているか 結果だった。 しないという不本意な この結果を受けてど

と思っている。

期日前投票所

所が城山地区から合同 三崎地区の期日前投票 市民からどんな反応が 庁舎に変更されたが、 県門

今回の選挙では、

選挙管理委員会事務局長 |崎下町の方から、

ていくことが、

議員の

に政治への関心を高め 行こうと思われるよう

これからも、投票に

形に変えられるような

ぜひ来年の市長選挙の もいたと聞いている。

皆さんも含めた、 政治家の課題であろう 我々、

けた というご意見を多く受 遠くなり不便になった の方からは、近くなり 方で、引橋周辺

うな話も伺っている。 に立ち寄れるというよ 設での買い物のついで 便利になった、 商業施



三崎下町を歩く観光客

×***********************************

休場中の市営プール

市長 水道事業所は今

直樹

を考えているか。 るが、どのような基準 作成していくことにな

保健福祉部長

三浦市

援者を抽出し、

名簿を

取り組まれている。

三浦市は今年度、

観

蓄養の推進を

「観光まちづくり」が

現在、

本市では

害時に特に支援を要す

を伺っており、事業者

クショップなどでお話 計画策定のためのワー らは、これまでも総合

の皆さんからは、今後、

て聴取を行っていこう

|浦市観光協会を通じ

を満たす者のうち、災

ると認められる者とし

害者手帳を持つ方、高

・ービスの利用者、 定の条件(介護保険

経済部長市民の方か

齢者のみの世帯の方等)

の作成作業をしている。 避難行動要支援者名簿

ている。

災害対策基本法で定

など)の中から、基準 を設けて避難行動要支

くりを同時に進める 振興と住みよいまちづ

その中でも意見をいた メントを実施するので、 障害者、

乳幼児

最近では、

観光

また、パブリックコ

められた要配慮者(高

ビジョンの策定

公共施設の現状と今後

国際交流、みうら夜市

みうら市政会 神田

第 126 号

の問題から、福祉会館 が分館や第二分館に移 少年会館の教育部、 転した。閉鎖した各施 の閉鎖を皮切りに、青 設は今後どうなるのか。 水道部の水道事業所 老朽化や耐震性 市の施設につい 青少年会館は、解体の であるが、福祉会館と 年度内に解体する予定 対は未定である。 消防本部は、今年度

方法は、今後庁内で議 地の維持管理や活用の 閉鎖するが、建物と敷 末まで使用し、その後

貴重な体験を

ら一定の負担をいただ

受益者負担の観点か

現在の消防庁舎はどう 防庁舎が建設中だが、 高校跡地には新しい消

また、引橋の旧三崎

みを利用してウォーナ 質問 青少年姉妹都市 [際交流事業は、夏休

生に応募できるよう、 らっ子育成寄附金を活 状態にあるので、みう もぜひ進めていきたい。 事業であり、これから 市長国際交流事業は、 応援できないか。 中高生が国際交流派遣 用し、一人でも多くの う負担金が高どまりの 三浦の青少年に有益な

業の実行委員会とも相 るが、育成寄附金の活 用については、交流事 くという考えは継続す

ンブール市を訪れ、外 現在、参加者の支払

たみうら夜市が開催さ 質問 八月十三日、十 しかし、八回目を数 大盛況だった。

だき、試験的に会場内 スペースを利用し、ま に休憩スペースと手づ り商友会にご協力いた 当日は多くの方が休憩 くり灯籠を設置した。

談していきたい

に、八回目を迎え

きたい。 目立ち、来場者に飽き あれば、お示しいただ られてしまうことが心 夫点や改善された点が 配される。ことしの工 えると、マンネリ化が

|市長||今回、日の出

い仕掛けづくり

真を撮っている方も多 今後も、地域の皆さ

来場者の皆さんに楽し 掛けを講じていきたい んでもらえるような仕

幹線道路の整備、水学

追事業

みうら市政会

早間

道治

た、手づくり灯籠の写 んの意見を伺いながら、



教育部等が移転した第二分館

創生事業」に取り組む。

うらりマルシェは、

だきたいと思っている。

見聴取を行うのか。 のように関係者から意 素があると思うが、ど すると、市民参加の要 まちづくりの観点から する予定である。観光 光振興ビジョンを策定 **質問** 三崎漁港内には、

大規模災害に備える

置づけている。

名簿登録をする者は、

動要支援者の範囲を位 地域防災計画に避難行

観光振興、三崎漁港の利活用

日本共産党 小林

域の利用頻度を上げる 近い立地からも、蓄養 域が見受けられる。水 利用頻度の低下した水 ため、また大消費地に 推進は有効だと思う。 ると思う。これらが三 崎にもっと流通できる

水産担当部長

行うことによって、 ようにならないか。 蓄養を

崎のブランドになり得 マグロと同じように三 蓄養が行われており、 カンパチ、シマアジの 三崎漁港内ではタイ、 費や観光との連携とい 接的な経済効果のほ にも、地場での魚の消 った波及効果があると

> 旬であること、関連し シェの開設は十一月初 社からは、うらりマル

況はどうか。

水産担当部長 海業公

Ⅱ期区

|間の先行整備区

間供用までには完成す

るよう、県・市が協力

して進めている。

が、経済循環が高まる も可能な支援はしてい ような形で、市として 経済の主体は民間だ

三浦市の観光ビジョンは

間については、 化財の発掘調査により Ⅱ期区間の先行整備区 整備が延びてしまって 埋蔵文

進捗状況は

質問 ①三浦縦貫道

と聞いている。



地元野菜等の販売(視察した施設)

駅、うらりマルシェ が拓く六次経済の未来 「みうら・みさき海の 六次経済の構築 良につ いるが、 聞きしたい。 小学校入口交差点の改 ②関連して行う初声 いても状況をお 現状は。

を進める施策として、

掘調査を進めるととも 市林地区での文化財発 ていると聞いている。 者である県が、 ており、三浦縦貫道路 一日も早い完成に努め に、調査に影響のない 都市環境部長 ②用地買収は完了し 工事を行うなど、 横須賀 ①事業

のある若い世代や女性

であり、市内のやる気

新しい販路の拡大につ

ながる大きなチャンス

な企画にしてほしい。 が多く参加できるよう

現在の事業の進捗状

変わりはないため、近 が、厳しい経営状況に 営を成り立たせている を取り崩すなどして経 現行では、内部留保

市長は任期中、

う考えに変わりはない。 考えに変わりはないか。 料金の値上げはしない 道料金を据え置くとい たとおり、任期中は水 と述べているが、その 市長 施政方針で述べ

見込まれる。 年ごろには経営がより で純損失を計上してい 一層厳しくなることが 推移すると、平成三十 る。今後、現状のまま 七年度まで六年間連続 厳しい経営状況 質問水道事業は、

める陳情

旨

本陳情は、

日米地位協

定について抜本的な見直

趣

しを行い、日本の主権を 行使できるように改定を

についての陳情

常任委員会での陳情の審査結果

9月定例会では、新たに提出された陳情及び継続審査中の 陳情、あわせて22件を審査しました。

今回、審査を終えた陳情は、次のとおりです。 そのほかの20件は、引き続き審査を行っていきます。

所管委員会	件	名	結	果
	平成29年度における 費助成制度継続」につ		了承でき	さるもの
都市厚生	平成29年度における 者を含む移動困難者に		//	,



可決しを意見書(概要)

返済不要の「給付型奨学金」の創設及び無利子奨学金 の拡充を求める意見書

現行の国の奨学金制度は、独立行政法人・日本学生支援機構 を通じて学生に貸与し、その返済金を次世代の奨学金の原資と する形で運営されている。

この奨学金制度の利用者は増加傾向にある一方、卒業後の収 入が安定せず、奨学金の返済に悩む人が少なくない。

そのような中、政府は6月2日に閣議決定した「ニッポンー 億総活躍プラン」において、返済不要の「給付型奨学金」の創 設を検討することを盛り込んだ。

政府においては、学生が安心して勉学に励めるよう、返済不 要の「給付型奨学金」の創設や無利子奨学金の拡充など具体的 な経済支援策として、次の事項について取り組むことを強く求 める。

- 学ぶ意欲のある若者が経済的理由で進学を断念することが ないよう、奨学金や授業料減免などの支援を拡充するととも に、貧困の連鎖を断ち切るため、2017年度を目途に給付型奨 学金を創設すること。
- 希望するすべての学生等への無利子奨学金の貸与をめざし、 「有利子から無利子へ」の流れを加速するとともに、無利子 奨学金の残存適格者を直ちに解消すること。
- 低所得世帯については、学力基準を撤廃し無利子奨学金を 受けられるようにすること。
- 返済月額が所得に連動する新所得連動返還型奨学金制度に ついては、制度設計を着実に進め、既卒者への適用も推進す ること。併せて、現下の低金利環境を踏まえ、有利子奨学金 の金利を引き下げること。

〈提出先〉内閣総理大臣、文部科学大臣



玉 菊 井 池 恵 理 惠 氏 氏

り同意することに決しり同意することに決しのをするための議案が命をするための議案が 教育委員会委員 定例会後に任期満了

◎日米地位協定の抜本的改定を求 新たに提出された陳情

障害者医療費助成制度継続」に◎平成二十九年度における「重度

ついての陳情 旨 受けられるよう、配慮し 透析者が負担なく医療を 本陳情は、 障害児者

◎平成二十九年度における「障害 児者・透析者を含む移動困難者 に対する通院支援」についての

陳情

趣

◎自然災害対策に対する陳情

するよう求めています。 求める意見書を国に提出

趣 旨

の自然災害から市民の生

本陳情は、集中豪雨等

医療・福祉助成施策を行 に対する通院支援を含む うよう求めています。 本陳情は、 移動困

もに、公表することを求 市が早急に実施するとと 命・財産を守る対策を、

反対討?

た施策を行うことを求め ています。

本市の職員数は、

策が必要である。

ちが安心して教育を受けられるよう求める。 の家庭に大きな影響を与えている。制度を充実させ、 就学援助制度は、 支給額が大幅に減額され、 特に生活保護基準以下 すべての子供た

で民主的な市民本位の行財政運営を求めて反対する。 丸となって市民の生活を守ることが重要である。無駄をなくし、 地域経済と市民生活、市財政は厳しい状況が続いており、

い進されることを期待して、

賛

成する。

る。職員の健康を守り、 効率的な業務を行うために、 適正な人事政

定数より大幅に少なく、

慢性的な残業が見受け

いずれも平成二十七年度において市民負担が増加している。 そのほか、国民健康保険事業、 介護保険事業、 公共下水道事業では 職員が 公正 指摘された事柄を真摯に受け止

林 直 樹

賛成討論

みうら市政会

神

田

眞 弓

日本共産党

小

議案第四十三号

市

般会計決算の認定について

お

ける討

論

平成二十七年度三浦

市税収入が減少する中で、 た事業数や事業内容に取り組ん 人口減少や地価の下落、 身の 回 復 丈に合った財政規模と、それに見合っ の兆しが見えない地域経済の影響から できた。

を前進させており、 活に直結したごみ処理、 平成二十七年度は、教育環境 この中で国 国際化 や県の有利な補助金や制度等を積極的 をにらんだ市場の整備などの重要課題 の充実、消防力の一 層の強化、 市

度予算編成の参考にしたいと明 に導入したことは大いに評価できる。 決算委員会の冒頭で吉田市長 め、職員が一丸となって行政執行にま は、委員会で示された意見は二十九年 言している。 決算委員会で各委員から

三浦市議会の情報はホームページから

三浦市議会

検索

十月十六日

日

午後

一時

告会を開催しました。

今年は、選挙権年齢の引き下げがされたこ

議会を傍聴しませんか

平成28年第4回定例会は、次の日程により開かれる予定です。

月日	曜日	会 議 名 等						
11月28日	月	招集告示						
30日	水	議会運営委員会(日程・審議方法等決定)						
12月5日	月	本会議 (一般質問)						
6 日	火	本会議 (一般質問)						
7 日	水	本会議 (一般質問)						
8日	木	総務経済常任委員会						
9 日	金	都市厚生常任委員会						
13日	火	(仮)総合計画に関する特別委員会						
14日	水							
15日	木	社会福祉事業等に関する特別委員会						
20日	火	本会議(委員長報告・採決)						

※請願・陳情の提出期限は11月29日(火)です。

◆三浦市議会の本会議及び委員会は公開されていますので、自由に傍聴 することができます。

傍聴を希望する方は、市役所本館4階の受付で、住所、氏名、年齢を 記入してください。

◆お問い合わせは議会事務局へ 電話 046-882-1111 内線462·463

三崎地区(三浦市役所

青年部

(公社) 三浦青年会議所、 地域経済振興について」 $\widehat{\pm}$ 午後七時 三浦商

工 会議

所

参加対象者、 初声地区 共通テーマ 十月十五日 年間に審議した議案の内容につい (潮風アリーナ) 参加人数は次のとおりです。

て

を決めて開催しました。

各地区の会場、開催日時、

会場別テーマ、

ジに掲載します。

を対象とし、共通テーマと会場ごとにテーマ ともあり、これからの三浦を担う若い方たち



各区で回覧するチラシの梱包作業



リハーサルの様子

議 会 告 会

十月十五日・十六日に三回目となる議会報

三浦市在住の中学生と高校生 南下浦地区 八歳選挙権について」

十月十六日 (南下浦市民センター)

三浦市議会だより及び三浦市議会ホー 各会場で出された質疑・意見等は、 市内小中学校のPTA 「学校施設と通学路について」 (日) 午後五時 七人 次号 ムペ

本会議での議案等の審議結果

〈全員賛成で議決した議案〉

【議 案】

第42号 三浦市指定地域密着型サービスに関する基準を定める条例の一部 を改正する条例

第47号 平成27年度三浦市市場事業特別会計決算の認定について

第50号 平成27年度三浦市病院事業会計決算の認定について

第51号 平成27年度三浦市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について

第53号 平成28年度三浦市市場事業特別会計補正予算(第1号)

第54号 平成28年度三浦市水道事業会計補正予算(第1号)

第55号 教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて 第56号 教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて

【意見書案】

第4号 返済不要の「給付型奨学金」の創設及び無利子奨学金の拡充を 求める意見書

〈替否が分かれた議案〉 ○賛成 ●反対

		審議結果	みうら市政会					日本共産党			公明党自由民主党		無所属		
番号	件名		岩野 匡史	長島満理子	神田 眞弓	出口 真琴	草間 道治	布川照美	石橋むつみ	小林 直樹	藤田昇	出口正雄	下田剛	木村謙蔵	寺田 一樹
【議案】 第43号	平成27年度三浦市一般会計決算の認定につ いて	原案認定		0	0	0	0	•	•	•	0	0	0	0	0
第44号	平成27年度三浦市国民健康保険事業特別会 計決算の認定について	"	"	0	0	0	0	•	•	•	0	0	0	0	0
第45号	平成27年度三浦市後期高齢者医療事業特別 会計決算の認定について	"		0	0	0	0	•	•	•	0	0	0	0	0
第46号	平成27年度三浦市介護保険事業特別会計決 算の認定について	"	* 1	0	0	0	0	•	•	•	0	0	0	0	0
第48号	平成27年度三浦市公共下水道事業特別会計 決算の認定について	"		0	0	0	0	•	•	•	0	0	0	0	0
第49号	平成27年度三浦市第三セクター等改革推進 債償還事業特別会計決算の認定について	"		0	0	0	0	•	•	•	0	0	0	0	0
第52号	平成28年度三浦市一般会計補正予算 (第2号)	原案可決		0	0	0	0	•	•	•	0	0	0	0	0

※1 議長は表決に加わらない